

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>令和7年度実施小笠原村学力調査の結果は、全国平均から△0.10ポイント上回る結果だった。一方、2学年は△0.06ポイント、3学年は▲0.003と学年が上がるにつれて緩やかに下降する傾向がみられる。以上の点を踏まえて、以下の2点を1学年での解決すべき課題として挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的学力を定着させるために粘り強く学習に取り組めるようになること。</li> <li>・既習事項を適切に活用できるようになること。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p><b>【課題の改善に向けた方策】</b></p> <p>①短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付ける。</p> <p>②宿題の定着とスキルタイムでの漢字や言葉の復習を行う。</p> <p><b>【令和6年度末に期待する児童（生徒）の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考える力を伸ばす。 ・意見文や作文を書くことができるようにする。 ・構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。 ・作文を読み合い、文章校正する力を伸ばす。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。</li> <li>・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。</li> <li>・漢字、文法の小テストを週1回程度実施している。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><b>&lt;方策&gt;</b></p> <p>①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学习でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。</p> <p>②各学期にそれぞれの領域で一度以上は、単元の学習事項を踏まえた創造的な学習課題を設定する。</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><b>&lt;検証方法&gt;</b></p> <p>① 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。(1学期：83%)</p> <p>②成果物の取組状況に単元に関連のある既習事項、学習事項が正しく活用されているかを見取る。</p> </td> </tr> </table>		<p><b>&lt;方策&gt;</b></p> <p>①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学习でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。</p> <p>②各学期にそれぞれの領域で一度以上は、単元の学習事項を踏まえた創造的な学習課題を設定する。</p>	<p><b>&lt;検証方法&gt;</b></p> <p>① 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。(1学期：83%)</p> <p>②成果物の取組状況に単元に関連のある既習事項、学習事項が正しく活用されているかを見取る。</p>
<p><b>&lt;方策&gt;</b></p> <p>①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学习でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。</p> <p>②各学期にそれぞれの領域で一度以上は、単元の学習事項を踏まえた創造的な学習課題を設定する。</p>	<p><b>&lt;検証方法&gt;</b></p> <p>① 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。(1学期：83%)</p> <p>②成果物の取組状況に単元に関連のある既習事項、学習事項が正しく活用されているかを見取る。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p><b>&lt;成果&gt;</b></p> <p>①各単元の復習方法を伝えたことで、毎日の家庭学習で国語を選択して学習する生徒が増えた。</p> <p>②学習した内容を基に、自分の考えをまとめる活動を入れることで、本当にわかっているのかを自分で確認することができる生徒が増えた。また、復習が必要な箇所を家庭学習で補う生徒も増えた。</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <p>知識技能達成率B以上の生徒の割合が77%(2学期)であった。学習の量が増えるごとに割合が減ってしまうため、知識技能に特化した学習時間を確保して基礎的な知識の定着に努める必要がある。</p>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣が安定していないため、覚える学習内容(知識・技能)が定着しにくい。定期的に課題を出したり、小テストを実施したりするなどして、学習の動機付けを行うことが必要であると考え。</li> <li>・表出する内容に具体性がやや乏しい生徒、問いに正対した応答になっていない生徒が見られるため、課題の設定を細かく具体的にしていける必要があると考える。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>自ら学びに向かおうとする姿。</p>			

**〈授業改善推進プラン 令和7年度 第1学年 社会科〉**

**1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題**

- ・村学力テストの結果から、基礎問題は全国値を3.2%上回っているものの、活用問題は全国値を8.7%も下回っており、基礎的な知識・技能を活用する力が課題であることがわかる。
- ・また、記述問題に対する正答率が特に低く、全国値と比べ15.9%も下回っている。文章で考えを説明する力や論述力に大きな課題であることがわかった。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

[課題の改善に向けた方策]

- ①ICT 機器、資料集、地図帳を併用して活用する。
- ②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。

[令和6年度次学年末に期待する児童生徒の姿]

- ・課題を見つけ粘り強く調べるとともに、事実が正しいものか判断する力を育てたい。
  - ・グラフや表などから考察し、人に分かりやすく伝える力を伸ばしたい。
- (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等
- ①基礎的な知識を身に付けるとともに、時代や出来事の関連性などを多面的・多角的に考察する発問を取り入れたワークシートを毎時間作成している。
  - ②ワークシートに考えをまとめる発問を設定したり、プレゼンテーションソフトを利用して発表し合ったり、知識を活用する活動を取り入れている。
  - ③单元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。
- ②单元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。

＜検証方法＞

- ①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が60%以上の生徒の割合が80%以上となるようにする。  
(1学期：67%)
- ②各学期の知識・技能の観点の正答率が80%以上の生徒の割合が80%以上となるようにする。  
(1学期：61%)

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

・单元ごとに小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図った。平均点が8割を超えるようになった。

＜課題＞

・ワークシートなどから文章を書く力は伸びているが、定着した知識・技能を活用する力が課題となった。

**5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・アンケートより、家庭学習を行っているとは回答した生徒は多くなっているが、学習内容量の増加に伴い、取り組み方などを工夫するなどして、学習内容の定着にむけて繰り返し確認していく必要がある。
- ・社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠をもって自らの考えを表現する力を育成するために、資料等の読み取りや調べ学習などを増やす。

**6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

基礎的な知識・技能を活用し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の考えを根拠をもって表現できる生徒

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 数学科〉**

<p><b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての観点において全国値を上回っているが、「知識・技能」の観点は71.8と他の観点と比べて、全国値68.6との差が小さい。</li> </ul> <p><b>【解決すべき課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の「知識・技能」の観点の問題については、「小数・分数の計算」の乗除に関する問題において、正答率が全国値よりも下回っている問題もあった。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。</li> <li>具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。)</li> <li>毎時間最初の5分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。細かく小テストを実施しながら、必要に応じて個別に課題を出す。</li> <li>授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。</li> <li>小学校での学習内容の復習を繰り返し行う。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①小テストで正答率80%以上になる生徒数がクラス全体の8割を超えるかどうか。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①小テストで正答率80%以上になる生徒数がクラス全体の8割を超えるかどうか。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①小数や分数をふくむ計算演習と小テストを実施。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①小テストで正答率80%以上になる生徒数がクラス全体の8割を超えるかどうか。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習後のテストに行ったテストでの正答率80%を超えた生徒がクラス全体の8割を超えた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト等を行っていないが、授業での取り組みの中で分数の計算ができていない生徒がいるなど、時間の経過により再度復習が必要な生徒がいる。</li> </ul>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短時間でも継続的に計算等の演習を続ける必要がある。</li> <li>生徒間での習熟の差が大きいため、個別の進度に合わせた課題が必要である。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>文字式の計算や方程式などの基本的な計算の技能が身についている。</p>			

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 理科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(52.6)に対して(50.4)であり、観点別に見ると、思考・判断・表現は全国平均(47.9)に対して(45.5)、知識・技能は(55.3)に対して(53.3)と下回った。前年度の学習内容の定着に課題が見られる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力を高めるために、授業内で予想を考える時間を多くとる。</li> <li>・実験後の考察を共有する時間の確保を行う。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元まとめテストの実施</li> <li>・つまずきやすい単元の復習プリントの配布</li> <li>・ふり返りシートのデジタル化</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルワークシートの活用、ふり返りシートの活用によりいつでも自分の好きなタイミングで学び直しができる授業を実施でき、家庭学習の補填ができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の保持に課題が見られるため、定期的に既習事項の確認を行い、短期記憶から長期記憶へ変換していく必要がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト前の学習習慣を確立することができた。ワークは1週間前に提出期限とした。一方で、学習内容の長期間の定着には課題が見られるため、くり返し確認していく必要があるようである。</li> </ul>
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>基礎的な知識・技能が定着しており、観察・実験の考察で科学的根拠をもとに思考の言語化ができる生徒。</p>	

## 〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

問5の質問項目について、全体の21%が否定的な評価を回答している。これは、1学年1学期では器楽領域（吹奏楽）の習得が実感しにくいことや、明確な発表や完成のない歌唱授業で「上手になった」という実感が得にくいことなどが原因として推察される。年度末の音楽発表会後の振り返りに限らず、毎時間の授業でどのくらいできることが増えているのか、目に見えて実感することのできる工夫が必要であると考え。また全校吹奏楽においては、その性質上、50分間でできることが増えることが確実ではないため、生徒が粘り強く希望をもって練習を続けられるような工夫が必要である。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【言語化の支援】聴き取ったことや感じ取ったことを言語化することに苦手さがある生徒が少なくないため、きっかけとなるような語彙を集めたプリントを配布した。歌詞や音楽記号を、情景や感情と関連付けながら、「言葉で表現できる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、体の使い方や、奏法等のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、器楽分野では各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室のUD化】授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。(吹奏楽)

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

①授業の中で振り返りを行うが、「その日できたこと」の記載欄を設ける。また、奏法等に関する疑問点に答えていくため、質問欄を設ける。

②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。

#### <検証方法>

①年度末の音楽発表会後の振り返りで、できるようになったことに対する具体的な記載を見とる。(自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載)

②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が85%以上を超える。

### 4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

#### <成果>

- ・問5の肯定的評価が100%となった。

#### <課題>

- ・ICT機器の利用に関する設問の肯定的評価が80%に留まった。

### 5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・ICT機器を利用して、生徒が「できた」と実感できるようにする。

### 6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

吹奏楽では、先輩の立場として、新1年生に演奏技術を伝えていけるとよい。自分が教えたことで、下級生の技術に進歩が見られた時、自分自身の成長を実感してほしい。

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 美術科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったつもりになっているが、本当に理解ができていないことがある。</li> <li>・「できた」だけで「わかって」いないことがある。</li> <li>・生徒の授業評価アンケートにおいては、全項目ほぼ肯定的な意見となっている。しかし、4よりは3の意見が多いものもあるので、よりわかりやすい授業になるよう、工夫する必要がある。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。</li> <li>・表したいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。</li> <li>・自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明（わかる）→作業（できる）」では、生徒はあまり理解していない場合も多い。「説明（わかる）→作業（できる）→説明（わかる）」と同じ内容を繰り返すことで、自分のやった作業と説明がつながってくる人が多い。テスト前に補習を行い、同じ内容を確認することで、定着と紐付けを行う。</li> <li>・振り返りを記入する際に、考えたことや悩んだことを記入させるようにし、それに対してひとつひとつコメントを入れることで、個々の課題をクリアするための手助けになるようにする。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気づき、丁寧に対応していくこと。</p> <p>②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品への現れ方を見る。 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。</p> <p>②作品への現れ方を見る。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの提出率がよくなり、内容も充実してきた。</li> <li>・意欲を高くもって授業に臨んでくれる生徒が多い。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業には興味もてるが、テスト等には興味関心が高まらない生徒がいる。</li> </ul>	<p><b>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートにおいては、ほとんどの生徒が好意的に授業を捉えている。授業にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。苦手な生徒もいるが、投げ出さずに取り組んでいるので、苦手意識が少しでも薄れるよう、達成感を感じられるような授業をしていくこと。</li> </ul>
<p><b>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>表現意図をもち、その実現のために工夫と努力を怠らない生徒。</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 保健体育科〉**

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (当てはまらない1名、やや当てはまらない3名、やや当てはまる6名、かなり当てはまる5名)</li> <li>・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (当てはまらない1名、やや当てはまらない2名、やや当てはまる5名、かなり当てはまる7名)</li> </ul> <p><b>【令和7年度1学期実施授業アンケートより15名回答】</b></p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。</li> <li>・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気づきを伝えあったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。</li> <li>・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。</li> <li>・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。</li> <li>・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>〈方策〉</p> <p>①学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと</p> <p>②生徒同士、教師との振り返りの時間を設定し、学習のまとめと全体への共有をすること。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①2学期授業アンケートの上記項目の「当てはまらない・やや当てはまらない」回答の減少</p> <p>②2学期期末考査の得点と生徒自身の学習方法の振り返り</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>〈結果〉15名回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の授業アンケートで科目に対する興味関心の回答は、ややあてはまらない2名、あてはまる10名、かなり当てはまる3名であった。また、学習内容が身に付いているとの回答は、ややあてはまる12名、かなり当てはまる3名であった。</li> </ul> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の質問で否定的回答は減少した。</li> <li>・授業終わりに振り返りの時間や仲間や全体での共有をすることができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの回答もかなり当てはまるが減少した。</li> </ul>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な学習内容を確実に定着すること。</li> <li>・単元前後で、身に付ける力を生徒とともに共有すること。</li> </ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体感覚を感じ取り、仲間と協力して運動やスポーツを楽しむ姿</li> </ul>	

## 〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業評価アンケートで授業の中で学習用端末を活用しているかの項目が30%の生徒があまり活用されていないという結果だったので、ICTを活用した提示方法や、タブレットを活用したワークシートなどを作成し、生徒が分かりやすい授業を目指す。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・工具も初めて見聞きするものが多く、使い慣れていないため、工具の使い方の動画を見て分かりやすいように提示する。

#### (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。
- ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①課題やワークシートをタブレットによって配布したり、道具の使い方のどの作業している様子を動画で提示して生徒が作業を分かりやすいようにする。

#### <検証方法>

- ①作業が行程どおりに進めたかどうか。
- ②作品の完成度が高いかどうか。

### 4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

#### <成果>

作業のつまずきポイントを動画や写真で提示することによって、見通しをもって作業をすることができた。その結果作品を行程通りに完成させることができた。

#### <課題>

作業の動画などを生徒がいつでも確認できるようにICTを使って準備するようになる。

### 5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・各題材の評価項目と評価基準をもう一度見直し、生徒に周知して、見通しをもたせ授業と評価を行う。

### 6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

生徒自身がモノづくりを通して「自分はできるという」自己肯定感が深まるような姿を目指す。

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術・家庭 家庭分野〉**

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での予習・復習が十分でない（授業アンケート問1：否定的8人、肯定的9人）</li> <li>・ICT活用の実感に差がある（授業アンケート問6：授業中端末活用否定的4人、肯定的13人／問15：教員のICT活用について否定的4人、肯定的13人）</li> <li>・学習内容の定着や興味関心の実感が一部に不足（授業アンケート問4・5 否定的2人、肯定的15人）</li> </ul> <p><b>【令和7年度1学期実施授業アンケート 17名回答】</b></p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識・技能について家庭実践レポートを單元ごとに行っている。</li> <li>・ICT活用して、繰り返し復習できるような環境づくりをしていく。</li> <li>・練習の時間を十分にとっている。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習や生活技術の実践を通じ、「できる」実感を重視する。</li> <li>・授業開始時に目標や評価方法を明確に提示する。</li> <li>・ICTを活用した調べ学習や振り返りの実施を行う。</li> <li>・ていねいな説明・板書、机間指導の充実を行う。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①家庭と連携した予習・復習の仕組みづくり 家庭でできる課題を出し、授業内容とつなげる。提出物に家庭からの一言等を設け、保護者と連携する。</p> <p>②ICT活用の目的の明確化と工夫した共有活動 端末を活用して、調理手順の動画視聴・まとめシート作成・意見の共有などを明確な目的をもって実施。Jamboard やスライドを用いて、ペアやグループで発表・鑑賞の時間を設ける。</p> <p>③「できた！」を実感できるアウトプット活動の設定 調理等の実践後、振り返りシートで達成度を自己評価。写真や感想を組み合わせたレポートを作成し、簡単な展示や発表活動で自他の成長を実感させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①題材終了後のアンケートや2学期授業アンケートで、家庭学習・ICT活用の効果について振り返る。</p> <p>②振り返りカード等を用いて、学習の成果と課題を記録する。</p> <p>③振り返りシートや2学期授業アンケートで、学びの実感について振り返る。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に関しては改善された。（「授業中、学習者用端末を活用して学習している。」（授業アンケート6）の否定的な回答が4人から1人になった。「先生は、ICT機器を効果的に活用している。」（授業アンケート15）の否定的な回答がゼロになった。）</li> <li>・学習内容の定着や興味関心の実感が高まった。（「授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった。」（授業アンケート5）は否定的な回答がゼロになった。）</li> </ul> <p>＜課題＞ 家庭学習に関する改善は見られなかった。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と結びつけられる学びをより重視していく。</li> <li>・学習内容の定着や興味関心が高まるような授業を引き続き行う。</li> <li>・家庭学習課題を設定し、家庭との連携を図った取組を実施する。</li> </ul>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びと生活を結び付けられる生徒</li> </ul>	

**〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 英語科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

・令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で+7.8ポイント、観点では知識・技能+6.4ポイント、思考・判断・表現では+10.2ポイントと非常に高かった。現状課題となる事項は見受けられないが、他学年のこれまでの傾向を見ると学年が進むにしたがって知識・技能において低下が見られている。また、上位層と下位層が大きく乖離する傾向がある。現状を維持しつつ、下位層への継続的なサポートを行っていく必要がある。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

該当学年が小学5年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。

- ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が30%程いる。
- ・聞き取りや読み取りが苦手な児童が30%程いる。
- ・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が10%程いる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。
- ・既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。
- ・既習学習の基本表現の反復練習の練習を行い、基礎の定着を行う。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。
- ②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。

＜検証方法＞

- ①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
- ②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

- ・基礎基本の定着を図るための統一した形式の練習プリントは新規導入文法の理解の助けになっている。
- ・表現活動では相手の発言に対応してコミュニケーションを継続しようとしている。

＜課題＞

- ・理解から練習、習得へと学習を深めることができていない。
- ・基礎的な単語などの暗記が苦手

**5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・基礎的な単語などが定着しない  
⇒過度な負担にならない範囲で単語数を絞った確認テストなどを行うことを検討する。
- ・高いコミュニケーション意欲の維持  
⇒前述の基礎的な単語定着に重点をおき過ぎずに、継続的なコミュニケーション活動を行うことで現在の高いコミュニケーション意欲を維持したい。

**6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

基礎的な単語や表現をコミュニケーションの中で使おうとするだけでなく、正確に表現できる生徒